

長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

輝きの道～一人ひとりが光り、優しさあふれる生徒会～ が今年度の生徒会テーマ



そのテーマどおりの姿を見せてくれた2・3年生

平成28年1月23日(土) 第85号

おおもり

1 4年ぶりに開催！「第2回相森中学校掃除に学ぶ会」

4年ぶりに須坂市立相森中学校からお声がけをいただきまして、2回目の会が12月6日(土)に行われました。4年ぶりですから、前回の会に参加したことのある生徒さんはみんな卒業してしまいましたし、先生方もだいぶ入れ替わってしまいましたので、実質1回目のような感じです。それでも、当初はなんと100名を超える参加希望がありました。しかし、それだけの人数でお掃除するにはトイレの数が足りないことや、私どもスタッフの手も足りないこともあります。大変申し訳なかったのですが、ここで生徒会のバトンタッチをする2年生48名と3年生10名に絞らせていただき、1年生は次回の3回目にまわっていただくことにしました。

当日、私は3年生の班を担当しましたが、最初に「今日は休日だし、寒いし、朝早いのになんで参加しようと思ったのか教えてくれるかな？」と問い合わせました。すると、「いつも掃除はしてるつもりだけど、惰性になっているような気がするので、もっとしっかり掃除ができる自分になりたいと思ってきました」とか「本当の無言清掃が経験できると思ってきました」など、お掃除を始める前から出てくる言葉が違うのです。これは日頃のお掃除の中で、それだけ自分自身を突き詰めて向き合っていないと出てこない言葉だと思います。それだけでもすごいのに、なんと「4年前の会に参加した兄が『あの会はいい会だから参加した方がいい』と言っていたのできました」という子が2人もいたのです。お家でもそんな話をしてくれているなんて本当にうれしいですよね。そんな3年生の担任をされている北原先生からご寄稿いただきました。

明日からの清掃の時間は

相森中学校教諭・北原 遼司

「しゃべっていないで無言で掃除しろ！！」「ひとり通り掃除が終わっても、終了時間までは気づき清掃をするんだぞ！！」毎日、そんなことばかり言っています。清掃の時間は、怒ってばかり。生徒たちと一緒に掃除をやっていても、綺麗にしようと思う気持ちが半分、ちゃんとやっているか見張らないと思う気持ちが半分。「こんな清掃指導は違うよな。これではいけないよな」と自分で分かっていながら、その繰り返でした。

今回は、生徒たちといっしょに2時間半みっちりトイレ掃除をやらせていただきました。リーダーから、綺麗になる清掃のやり方、道具の使い方を教えていただき、さあいざ実践。床をブラシで磨くと、洗剤の泡は一気に黒ずみました。「こんなに汚れていたんだ！！」便器をサンドメッッシュで磨くと、みるみる汚れがおちていきました。「すごい、何これ！！ピカピカになる！！」ナイロンタオルで蛇口を磨くと、本当に輝いた。「新品みたい！！」もうみんな夢中です。リーダーが次の作業の説明をしようとしても、私も生徒も、もっと綺麗にしようと手を止めません。初めは少し遠慮がちだった生徒も、床に手と膝をついて、力をこめて、一心不乱に床を磨いています。便器の方に目をやると、便器に顔を近づけて普通に見ていては見えない便器の裏側にまでこだわる生徒もいました。最後に床の水滴をふき取り、ガムテープで小さなほこりをとりました。トイレの床を作業しながらある生徒が一言、「もうここに普通に座れるよね」。膝をつくことすらためらっていた生徒の2時間半後の言葉です。自分が夢中になって磨いたからこそ生まれる言葉だと思いました。

「しゃべらないでやれよ！！」という、清掃中のいつもの一言。そういえば、今日は一回も言っていない。毎日あれだけ言ってもできなかつた無言清掃なのに、今日は無言の時間が続きました。清掃は無言でやることに意味があるのではなくて、無言になってしまふくらい面白くて夢中になれるもの。やらされるものではなくて、楽しくて、心が温かくなり、清々しくさせてくれるもの。そんなことを教えていただきました。明日からの清掃の時間は、見張る時間なんかじゃなくて、生徒たちと共に清掃の楽しさを味わう時間にしていこうと思います。

続いて、生徒さんの感想です。もっとあるのですが、紙幅の関係で3名だけで失礼します。

最初とは正反対の気持ちにさせる清掃はすごい 相森中学校2年・山崎 椎南

私は主に和式便器の清掃をしました。最初は「素手でやるなんて汚くてやだな」と思っていましたが、勇気をふりしぶって磨いてみると、だんだんと汚れが落ちてきてすごく楽しかったです。黒ずみや水あかを落としているうちに、ついつい無言になって磨き続けていました。便教会のリーダーの方に、「便器はもう終わりにして、次はパイプのところをやるよ」と言われたとき、最初はあんなに嫌だったのに、そのときに「もう便器終わりなのか、もっとやりたいな」と思っている自分がいました。便器を本気で磨いた数十分のうちに最初とは正反対の気持ちにさせる清掃はすごいなと思いました。

壁はホースで水をかけたところから乾いた布で一斉にみんなで拭きました。壁を拭くだけでも水のあとが残らないようにしたり、布の向きによって方向を変えたりと、いつもは気にしていなかったことまで丁寧にやりました。床は壁にかけた水がたくさん落ちていてビチョビチョでした。そこで、私たちの班の目標は「靴下で歩けるようにしよう」ということで、一生懸命水を拭き取りました。そのときもコツがあって、リーダーに伝授して頂きました。清掃が終わったあの片づけも1つの物を3回水洗いしたりして、丁寧に道具を片づけました。片づけも楽しかったです。

私は「掃除に学ぶ会」を通して、今までやっていた清掃って何だったんだろうと思いました。今までやっていたのは清掃のつもりだったけど、実際は細かいところまで意識できていなかっただと思います。「掃除に学ぶ会」で学んだことをこれから普段の清掃に生かしていきたいです。

無言清掃の意味を知れた

相森中学校2年・有賀 もえ

私は、この「掃除に学ぶ会」に参加して、一番は無言清掃の意味を知れたと思います。無言清掃を心掛けるのではなく、清掃をし、夢中になり、無言になるので、無言清掃というより、真面目に取り組めば、無言になるのだなと思いました。

私は男子トイレが清掃場所だったので、最初は少し抵抗があり、少しやる気になれませんでした。でも、少し清掃を始めると楽しくなってきました。普段の掃除ではできない汚れを落としたりしてみると、自分がやったところがとてもキレイになっていると嬉しくなりました。私は掃除は今まであまり真面目に取り組んでいませんでした。ですが、この清掃に学ぶ会を通して、掃除をする楽しみがわかりました。掃除はこんなにも楽しいんだと思うことができ、普段の清掃にもしっかりと取り組もうと思いました。

この会に参加することで、色々大切なことが学べたと思いました。日々の生活にも生かしていきたいと思います。これから2年生は生徒会を引っ張っていく立場として、一生懸命に何事も取り組んでいこうと思いました。頑張りたいと思います。

どれだけ真っ向から向き合うことができるか

相森中学校3年・廣田 来未

初めて日程を見たとき、「2時間半もやるところないでしょ」と思っていました。ですが、あらためて便器や床や壁と向き合ってみると汚れがたくさんありました。そんな汚れと格闘していると、気づかぬうちに無言でひたすら磨いていたような気がします。私がこの2時間半で考えたことは「磨いたり、向き合っているのは汚れだけではなく、他の何かではないか」ということです。

清掃をした後、私自身の気持ちもキレイになったような気がします。それが「掃除を学ぶ会」ではなく「掃除に学ぶ会」ということなんだなと感じました。これから何十年という長い間を生きていく中で、清掃を何回、何十回、何百回するのでしょうか。そして、どれだけ真っ向から向き合うことができるのでしょうか。すべての清掃に本気で向き合えたとき、それが私が成長する第一歩だと考えました。

2 お知らせ

○小布施掃除に学ぶ会・月例会→毎月第2日曜朝6時~8時30分(5:45にはご集合ください)

○第4回長丘小学校掃除に学ぶ会→平成28年2月7日(日)中野市立長丘小学校

6年生が毎年「卒業謝恩清掃」をしています。私たちも一緒に学ばせていただきます。

○第1回豊丘中学校掃除に学ぶ会→平成28年2月13日(土)豊丘村立豊丘中学校

初開催です。生徒会を引き継いだばかりの2年生で会をやります。初心を大切にしましょう!

○第10回小布施掃除に学ぶ感謝の会→平成28年3月12・13日(土・日)小布施町立小布施中学校

「1月は行く。2月は逃げる。3月は去る」の言葉どおり、3学期は本当にあつという間ですね。

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明(木島平中学校教諭)

携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>